

(4) ①様式第4号-2 (報告書)

<p>NITS カフェ報告書</p>	<p>実施機関名・連携機関名                  実施機関：宇都宮大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻                  連携機関：栃木県教育委員会</p>
<p>※ 機構記入欄 No. : -</p>	<p>セミナー名：                  【NITS カフェ in 宇都宮】                  コミュニケーションを問う                  ～小中学校の英語教育～</p>
<p><b>テーマ：</b>                  グローバル化が進展する中で、英語によるコミュニケーション能力は、今後社会生活のさまざまな場面で必要とされることが予想され、コミュニケーション能力の一層の向上が期待される場所である。                  本企画では、コミュニケーション（能力）観について研究されている巨理氏に、英語を中心にコミュニケーション（能力）観に関する研究成果について紹介していただく。その後、グループ協議を通して、互いのコミュニケーション（能力）観やコミュニケーション能力を育成する取組等について考えていく。                  こうした意図をもとに、テーマを設定した。</p>	
<p><b>内容：</b>【開会行事】・NITS カフェの趣旨説明 ・講師紹介</p> <p>【講話・演習】                  「問われるコミュニケーション（能力）観～小中学校の英語教育～」                  静岡大学教育学部准教授 巨理陽一氏                  〈前半〉                  「本日は、英語専門、専門以外の方がいますが、おそれずに使ってほしい。英語が出てこないという気持ちにこそ、新しい言語を学ぶという伸びしろを実感できる。」                  Q：「About Me」英語で私にどんな質問をすれば、この答えが出てきますか。「Yoichi」「London」「14」「Prawn」                  ペアワーク                  A：What is your name? B：Yoichi May have your name? A：Kentaro・・・                  →答えから授業を始めると、自由度が高まる。                  ○外国語科で目指す「対話的」とは                  ・コミュニケーションをしながら、コミュニケーションを学ぶ。 ・対話そのものが学習対象                  ・話題に関して他者が存在する。 ▲おしゃべりは一方的                  ・外国語科＝自他にとって心地よいコミュニケーションとはどういうものかについて考え、英語を駆使してそれを実践するための教科                  Q：サッカーに関する対話を観てどう思うか。                  ペアワーク                  よい点：相手を巻き込んでいるところ おかしい点：唐突さ、相手の意図を汲み切れていない                  修正した動画のよくなっている点                  「切り出し」「応答」「意図説明」「情報追加」「意図説明」「意図を汲んだ応答」                  ※二人以上の対話で深めたい力・・・Discourse Competence                  ①開く ②発展させる ③応じる ④確認する ⑤詳述する ⑥尋ねる ⑦広げる ⑧受け容れる                  ③、⑤、⑧で着地させることが、対話を心地よく終わらせる鍵。小学校でも 3 ターンまでは意識したい。                  ペアワーク：Haruto と Hana やりとり                  日常の対話になっていない→「わがこととしての対話のテーマが欠けている」                  ペアワーク：AとBの対話（AはB、BはAの文を見ないようにする）                  A：来週末、友だち数人と行く東京ディズニーランドに相手を誘う。乗り気じゃないように見えても、何とか参加するよう説得する。                  B：来週末、友だち数人と行く東京ディズニーランドに相手を誘ってくれるが、一緒に行きたくない人もいるので、何とか穏便にその誘いを断る。                  ・どのように断ったかを振り返る。                  英語での断り方 5 つ (①肯定的コメント ②お礼 ③謝る ④代案を提示する ⑤直接的)</p>	

→実際はこれらを組み合わせることがポイント

※英語科を Discourse Competence が縦と横に深化する授業にする

その際の基本は、Interaction(縦)→Speech (横)

○英語科は、単に技術として「コミュニケーション能力」を高めるための教科ではない。

○闇雲に大きい声で、相手の目を見て話し、身振り手振りを多用するための教科ではない。

○「答え」を見つけるための教科ではない。

○小中 9 年間では絶対に完結せず、英語だけでも成し得ない。

・Big voice というのなら、Intonation

〈後半〉

対話実践的英語教科観のもとでの授業の基本形

・従来の授業 Plan-Organize-Express-Reflect

→日常生活との分断。授業だけに閉じている

・Task-Based Language Learning の考え方が入ってきている

教室で学んだことを教室外で確認する環境にはまだなっていない。

そこで、まずは、自分の思うことを言ってみて、書いてみて。

Think-Express-Accept を大切にしたい。

Task-Based が入ってくるのは、2050 年頃？

「授業だからできること」と「授業外だからできること」は分かれたものとしてある方が望ましい。

→ Think-Express-Accept-Copy-Hook-Elaborate-Reflect(TEACHER モデル)

※英語を通して ・自己認識が深まる ・他者へのまなざし、向き合い方が変わる ・ことばそのものの見方・考え方、使い方が変わる こうした学びを展開していく。

ペアワーク

① ピーターラビットの 4 枚の絵を見てオリジナルストーリーを作る (おもしろければ O K)

② ①を伝える→コメント ③ 元の話聞いて再話する ④ オリジナルストーリーを伝える。

→繰り返したが、繰り返しを繰り返しと感じさせない。1 回 1 回が高まっている。

単元レベルでデザインする。何らかの目的に向かって対話を行う。

まとめ Transaction から Interaction へ

**成果：**参加者の声から

・「英語が苦手だから授業は難しくてできない」と感じている小学校の先生も多いかと思うが、むしろ苦手だからこそ、真のコミュニケーションに目を向けて授業を行えるのではないかと感じた。

・「対話をする」とはどういうことかということ、もう一度よく考える機会となった。

・なぜ、この学習をするのか、目的を明確にしながら子どもたちと一緒に学んでいきたいと思った。

**アイデアや工夫したこと：**①一つのテーブルの人数を 4～6 人とし、2 人または 4 人の協議を行った。

②テーブルの中で、現職教員、行政、学部卒院生、大学教員が混じるようにした。

※参加者総数 54 名 (現職教員 21 名、教育委員会 5 名、教職大学院生 23 名、大学教員 5 名)

〈写真・図など〉



【講話の様子】



【ペアワークの様子】



【オリジナルストーリーを伝える】